



西村宣彦教授

# カーボンゼロ社会へ

長崎大学の挑戦

<12完>

風が吹けば桶屋が儲かる。これは、一見関係のないところに隠れた因果関係があることを示す言葉です。このよつな考え方を「システム思考」と言います。世の中はさまざまな因果関係で成り立っている。表出している問題にそのまま対策をとると、物事は逆に悪い方向に動くことが多くあることを意味します。

皆さんは、欧米の一部の国や地域で麻薬が公認されているのをご存知でしょうか。一見すると、これは麻薬を合法的に世の中に広げているように見えますが、実は、システム思考的な麻薬対策の取り組みと云えます。麻薬に健康被害があるから厳しく取り締まるというのが、表出している課題にそのまま取り組むことです。その結果、麻薬が入手困難になり、価格は上昇します。そうなることを警

## 「システム思考」で対策探る

人文社会学域  
副学域長・教授

にしむら のぶひこ  
西村 宣彦



長崎大学経済学部みらい創造センターでのワークショップ風景

察に捕まる可能性があっても麻薬の密売をやらうとする人が増え、販売方法も巧妙化します。この悪循環によってマフィアが生まれ、逆に凶悪な犯罪が増えます。

取り締まりを強化すればするほど、犯罪者のうまみが増える。このシステムを断ち切る方法として、国が麻薬を管理下に置くわけです。

これは脱炭素社会の実現の取り組みにおいても言えます。欧州では石炭発電所を廃止し、ロシアからの天然ガス発電に切り替え、エネルギー供給をロシアに頼らざるを得なくなっています。

これはロシアによるウクライナ侵攻とも関係がないとは言いきれません。

また、太陽電池を作るために、それが発電する数十分の電力が必要で、しかも太陽電池には鉛やセレンなどの有害重金属が使用されており、今後使用量が拡大すると廃棄物は最大で年間80万トンにも達することが予想されています。もちろん、脱炭素社会の実現はとも重要です。しかし、物事を一面からだけ見て、対策をとると、それがその後大きなリスクとなることが多々あります。原子力発電も50年前は夢のエネルギーとして、当時の子供たち



本研究についての  
詳細はこちら

憧れの鉄腕アトム的心臓になつていました。

根本的な解決策を探すためには多面的に物事を見る必要があります。このためには、多様な人が他者の見解を受容して対話し、総合的にシステムとして物事を把握して、効果的な対策を探ることが必要です。長崎大学経済学部のみらい創造センターでは、さまざまな分野の人が一堂に会して、持ち込まれる問題を皆で対話して、解決策を探索する活動を行っています。また、現在この活動を長崎県内のさまざまな大学や高校等の教育機関、行政機関、民間企業に広げる活動に着手しました。

皆さんもこの活動に参加してみませんか。

来月から「プラネタリール」ヘルス 長崎大学の挑戦」が始まります。